



「二つの扉」-韓国・ソウル再開発地域での惨劇- ドキュメンタリー上映会

日時：2013年6月14日(金) 18:30~21:30
 場所：立命館大学朱雀キャンパス5階大講義室
 (駐輪・駐車場はございません。公共交通機関にてご来場ください。)
 プログラム：18:30~18:35 挨拶 勝村誠(立命館大学コリア研究センター長)
 渡邊浩平

(北海道大学東アジアメディア研究センター長)

18:35~19:00 ホン・ジユ監督によるプレトーク

19:00~20:45 ドキュメンタリー上映

20:45~21:30 ディスカッション

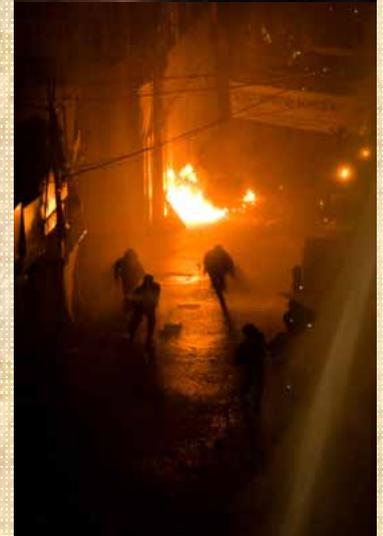
渡邊浩平教授
 金山勉教授(立命館大学産業社会学部)
 ホン・ジユ監督
 チョン・ヨンシン氏
 (龍山惨事真相糾明及び再開発制度改善委員会)

*参加費：無料、日本語字幕付き、逐次通訳あり

*お問い合わせ：立命館大学コリア研究センター
 Tel 075-466-3264 Fax 075-466-3247
 E-mail youngni@fc.ritsumei.ac.jp

「二つの扉」
 (2011年、演出：キム・イルラン/ホン・ジユ)

—2009年1月20日未明、李明博政権発足一年後のソウル・龍山で、業者の一方的な立ち退きに抗議して雑居ビル屋上に急ごしらえで造った「やぐら」に立てこもっていた地元住民たちを警察が強行鎮圧した。その際、住民5名と警察特攻隊員1名が死亡したが、これを「龍山惨事」と呼ぶ。本作品は、公権力による一連の強制退去をめぐる緊張の25時間について、断片的な関係者の証言などをひとつひとつ紡ぎあわせ、その全体像に迫る。開発重視の社会的欲望が漂うなかで執行される「公権力/国家権力」の暴力性を、「オルタナティブ・メディア」は鮮烈に捉えていた。韓国社会が抱えるさまざまな問題・課題を、独立系ドキュメンタリーをとおして東アジアで共有することの意義について、本作品に込められたメッセージとともに考えてみたい。



共催：立命館大学コリア研究センター・慶應義塾大学総合政策学部李洪千研究室
 北海道大学大学院メディア・コミュニケーション研究院東アジアメディア研究センター